

郵送調査と並行した調査員訪問の実施に関する報告

一般社団法人 新情報センター
企画部 高橋 祐二

1. はじめに

国立精神・神経医療研究センターでは、一般住民における飲酒・喫煙・医薬品・違法薬物の使用実態を把握するとともに、その経年変化を調べることを目的に、「薬物使用に関する全国住民調査」を 1995 年より隔年で実施している。

令和 3（2021）年度調査では、調査開始時（9月末）には国内新型コロナウイルス感染者が 170 万人を超える状況であったため、従来の訪問留置回収法から、回収を調査員回収、郵送返送、ウェブ回答のミックスモードを併用する調査法に変更して実施した。令和 5（2023）年度調査では、5 月に新型コロナウイルスが感染症法上の 5 類に移行したが、まだコロナの影響が色濃く残り個人の意識の変化も想定されたため、調査法の再検討を行い実施し、結果、10 ポイント以上の回収率向上となった。

本稿では、当社が請け負った令和 3 年度調査と令和 5 年度調査¹について、調査の概要・調査の流れ・回収結果等を報告する。

2. 調査の概要

令和 3 年度と令和 5 年度の調査概要は次のとおりである。

	令和 3 年度	令和 5 年度
母集団	全国の 15 歳から 64 歳の男女個人	同左
対象数	7,000 人	5,000 人※1
地点数	250	250
抽出法	層化二段無作為抽出	同左
期間	R3/9/30(木)～ 10/24(日)	R5/10/16(月)～ 11/19(日)
方法	訪問留置法(郵送 返送、ウェブ回答 併用)、追加郵送調 査あり	郵送法(ウェブ回 答併用)、並行して 訪問依頼期間あり
謝品	ボールペン (配付時に手渡し)	ボールペン (郵送時に同封)
回収数 (率)※2	3,605(51.5%)	3,112(62.2%)

※1 予算の都合による変動

※2 重複回答、性別・年齢不明を除く

調査対象の選定方法は、いずれの年度も同一である。母集団は、全国の 15 歳から 64 歳の男女個人であり、層化二段無作為抽出によって調査対象を選定した。全国を地域ブロック・都市規模で層化し、各層の人口に比例して調査地点を抽出後、調査地点において、住民基本台帳から等間隔で個人を抽出した。調査対象は、令和 3 年度 7,000 人、令和 5 年度 5,000 人である。

3. 調査の流れ

令和3年度と令和5年度の調査の流れは、それぞれ、以下のとおりである。

(1) 令和3年度調査

日付(曜日)	日程
9/22(水)	事前依頼状発送(ハガキではなく、封書)
9/30(木)	調査員による訪問依頼開始
10/24(日)	訪問期間終了
10/28(木)	督促はがき発送(1,251人対象)
11/4(木)	追加郵送調査(999人対象)
11/14(日)	追加郵送調査回答締め切り
11/26(金)	郵送返送受付締め切り

令和3年度は、調査員による訪問依頼後の回答方法として、調査員による訪問回収、郵送返送、ウェブ回答を対象者が選択する形で併用した。

調査員調査終了後、回収率を向上させるべく、督促はがきの送付及び追加郵送調査を実施した。督促はがきの送付対象は、調査員による調査書類配付が完了し、郵送またはウェブ回答を約束していたが、回答が確認できなかった対象者(1,251人)に送付した。追加郵送調査は、調査員による訪問調査期間中に一時不在で調査書類の配付ができなかった対象者(999人)に再度調査書類一式を郵送した。

(2) 令和5年度調査

日付(曜日)	日程
10/16(月)	調査票発送(事前依頼状の送付なし)
10/30(月)	督促はがき発送(3,423人対象)
11/5(日)	訪問対象除外締め切り
11/9(木)	調査員による訪問依頼開始(2,497人 ² 対象)
11/19(日)	回答締め切り日・訪問終了
12/22(金)	受付締め切り

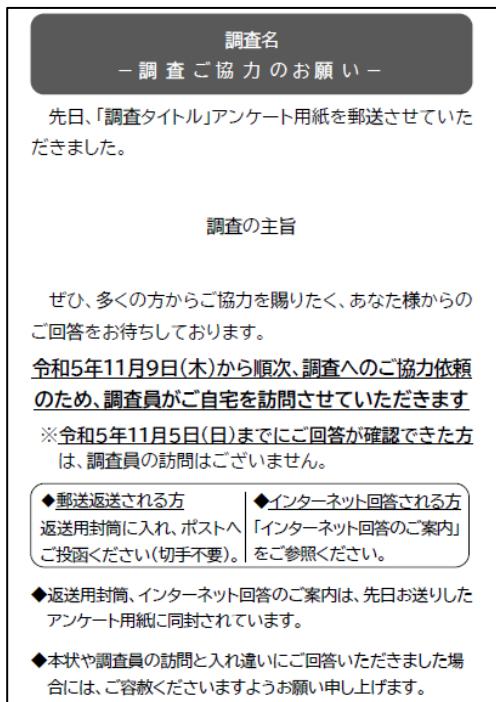
令和5年度は、郵送配付・郵送返送(ウェブ回答併用)を主軸とし、並行して協力可否が不明の対象者に対して、後日、調査員が訪問依頼する期間を設けた。

対象者には、10/16に調査書類を発送した。調査員による訪問依頼については、依頼状・ウェブ回答案内・送付用封筒の3点に明記した。(後述する督促はがきにも同様の内容を記載した。図1参照。)また、調査書類に記載した回答締め切り日は11/19とした。

調査書類の発送から14日後の10/30に、協力可否が不明の対象者へ督促はがきを発送した。対象者に提示した締め切りは当初と同日(11/19)であり、受付期間を延長する旨は記載しなかった。また、督促はがきにも調査員の訪問について記載した。

調査員による訪問依頼は、2,497人を対象に11/9から11/19の10日間で実施した。面会またはインターホン越しに接触した対象者には、郵送返送またはウェブ回答を依頼した。また、回答済調査票を回収できる場合は回収を行った。なお、調査書類を紛失した対象者へ配付する予備を調査員に持参させた。

図1 督促はがき裏面



4. 訪問依頼期間中の調査員への支援

調査員の訪問依頼期間中にも、対象者から郵送返送やウェブ回答が発生するため、回答が完了した対象者や拒否の意向を示した対象者を訪問しないよう配慮した。

調査地点ごとの回答済み・拒否状況について、調査員専用ウェブページを用いて調査員と共有した。訪問依頼期間中は、一定時刻（午前10時とした）に、訪問する必要のない対象者情報（対象番号）を追加更新した。

なお、上記のような行き違い訪問について、可能な限り発生防止に努めたものの、調査票の返送のタイムラグや土曜日・日曜日・祝日の郵便配達が実施されないこともあり、行き違い訪問は216件発生した。

5. 回収結果

(1) 回収結果（年代別・回収モード別）

令和3年度と令和5年度の回収結果（年代別・回収モード別）を表1に示した。なお、回収結果表の作成にあたって、重複回答、性別・年齢不明を除いている。

回収全体でみると、令和5年度は、全ての年代で令和3年度より回収率が上がっている、特に10代の回収率は令和3年度で48.8%、令和5年度で66.3%と17.5ポイント向上した。

回収モード別でみると、令和5年度は、郵送返送・ウェブ回答を先行する調査モードとした要因もあり、いずれにおいても全ての年代で令和3年度より回収率が增加了。特に、郵送返送では、10代と60代の回収率の増加が11ポイントを超えた。

また、ウェブ回答では10代の回収率が9.5ポイント增加了。

いずれの年度でも、郵送返送が回答方法として最も選択されている。令和3年度は郵送返送23.2%・ウェブ回答21.7%・訪問回収6.6%であり、令和5年度は郵送返送32.4%・ウェブ回答27.3%・訪問回収2.6%となっている。

訪問回収率は、すべての年代で令和3年度の方が高い。これは、令和5年度は調査員の訪問を副次的モードとしたことや、³調査の流れに前述したとおり、依頼状・ウェブ回答案内・送付用封筒・督促はがきに調査員の訪問について記載し告知したことで、先行する郵送返送やウェブ回答を選択した対象者が増えたことが考えられる。

表1 回収結果（年代別・回収モード別）

令和3年度

年代	標本数	全体		郵送返送		ウェブ回答		訪問回収	
		回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10代	502	245	48.8%	97	19.3%	113	22.5%	34	6.8%
20代	1,084	438	40.4%	131	12.1%	254	23.4%	53	4.9%
30代	1,281	592	46.2%	219	17.1%	313	24.4%	61	4.8%
40代	1,748	914	52.3%	374	21.4%	416	23.8%	125	7.2%
50代	1,619	931	57.5%	484	29.9%	330	20.4%	117	7.2%
60代	766	485	63.3%	316	41.3%	94	12.3%	74	9.7%
計	7,000	3,605	51.5%	1,621	23.2%	1,520	21.7%	464	6.6%

令和5年度

年代	標本数	全体		郵送返送		ウェブ回答		訪問回収	
		回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10代	306	203	66.3%	94	30.7%	98	32.0%	11	3.6%
20代	782	389	49.7%	154	19.7%	217	27.7%	18	2.3%
30代	955	545	57.1%	228	23.9%	291	30.5%	26	2.7%
40代	1,117	693	62.0%	332	29.7%	343	30.7%	18	1.6%
50代	1,294	877	67.8%	521	40.3%	322	24.9%	34	2.6%
60代	546	405	74.2%	289	52.9%	93	17.0%	23	4.2%
計	5,000	3,112	62.2%	1,618	32.4%	1,364	27.3%	130	2.6%

(2) 回収結果（性別・年代別）

性別・年代別の回収結果を、全回収モード・郵送返送・ウェブ回答・訪問回収ごとに、以下に示す。（表2～表5）

① 回収結果(全回収モード、性別・年代別)

令和5年度は、男性・女性どちらも、すべての年代で令和3年度より9ポイント以上回収率が増加している。特に男性・10代では令和3年度で47.6%、令和5年度で66.7%と19.1ポイント増加した。また、女

性・10代では令和3年度で50.0%、令和5年度で66.0%と16.0ポイント増加した。

年度ごとに性別・年代別の回収率の上位をみると、令和3年度では、女性・60代(66.4%)が最も高く、次いで、女性・50代(63.8%)、男性・60代(60.0%)と続いた。

令和5年度では、女性・60代(76.6%)が最も高く、男性・60代(71.8%)、女性・50代(70.2%)と続いた。いずれの年度も、回収率上位を構成する性別・年代は同様であった。（表2）

表2 回収結果（全回収モード、性別・年代別）

令和3年度 全回収モード

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	502	245	48.8%	10代	246	117	47.6%	10代	256	128	50.0%
20代	1,084	438	40.4%	20代	543	199	36.6%	20代	541	239	44.2%
30代	1,281	592	46.2%	30代	681	290	42.6%	30代	600	302	50.3%
40代	1,748	914	52.3%	40代	935	461	49.3%	40代	813	453	55.7%
50代	1,619	931	57.5%	50代	839	433	51.6%	50代	780	498	63.8%
60代	766	485	63.3%	60代	370	222	60.0%	60代	396	263	66.4%
計	7,000	3,605	51.5%	計	3,614	1,722	47.6%	計	3,386	1,883	55.6%

令和5年度 全回収モード

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	306	203	66.3%	10代	156	104	66.7%	10代	150	99	66.0%
20代	782	389	49.7%	20代	409	200	48.9%	20代	373	189	50.7%
30代	955	545	57.1%	30代	497	264	53.1%	30代	458	281	61.4%
40代	1,117	693	62.0%	40代	580	334	57.6%	40代	537	359	66.9%
50代	1,294	877	67.8%	50代	666	436	65.5%	50代	628	441	70.2%
60代	546	405	74.2%	60代	277	199	71.8%	60代	269	206	76.6%
計	5,000	3,112	62.2%	計	2,585	1,537	59.5%	計	2,415	1,575	65.2%

② 回収結果（郵送返送、性別・年代別）

令和5年度は、全ての性別・年代で令和3年度より回収率が増加しており、特に男性・60代では令和3年度で32.4%、令和5年度で45.5%と13.1ポイント増加した。また、女性・10代では令和3年度で20.3%、令和5年度で32.7%と12.4ポイント増加した。

年度ごとに性別・年代別の回収率の上位をみると、令和3年度は、女性・60代(49.5%)が最も高く、女性・50代(37.8%)、男性・60代(32.4%)と続いた。令和5年度は、

女性・60代(60.6%)が最も高く、女性・50代(48.4%)、男性・60代(45.5%)と続いた。郵送返送でも、いずれの年度も、回収率上位を構成する性別・年代は同様であった。(表3)

表3 回収結果（郵送返送、性別・年代別）

令和3年度 郵送返送

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	502	97	19.3%	10代	246	45	18.3%	10代	256	52	20.3%
20代	1,084	131	12.1%	20代	543	53	9.8%	20代	541	78	14.4%
30代	1,281	219	17.1%	30代	681	93	13.7%	30代	600	126	21.0%
40代	1,748	374	21.4%	40代	935	170	18.2%	40代	813	204	25.1%
50代	1,619	484	29.9%	50代	839	189	22.5%	50代	780	295	37.8%
60代	766	316	41.3%	60代	370	120	32.4%	60代	396	196	49.5%
計	7,000	1,621	23.2%	計	3,614	670	18.5%	計	3,386	951	28.1%

令和5年度 郵送返送

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	306	94	30.7%	10代	156	45	28.8%	10代	150	49	32.7%
20代	782	154	19.7%	20代	409	83	20.3%	20代	373	71	19.0%
30代	955	228	23.9%	30代	497	92	18.5%	30代	458	136	29.7%
40代	1,117	332	29.7%	40代	580	136	23.4%	40代	537	196	36.5%
50代	1,294	521	40.3%	50代	666	217	32.6%	50代	628	304	48.4%
60代	546	289	52.9%	60代	277	126	45.5%	60代	269	163	60.6%
計	5,000	1,618	32.4%	計	2,585	699	27.0%	計	2,415	919	38.1%

③ 回収結果（ウェブ回答、性別・年代別）

令和5年度は、全ての性別・年代で令和3年度より回収率が増加しており、特に男性・10代では令和3年度で20.3%、令和5年度で33.3%と13.0ポイント増加した。また、男性・40代では令和3年度で24.0%、令和5年度で32.8%と8.8ポイント増加した。

年度ごとに性別・年代別の回収率の上位をみると、令和3年度は、女性・30代(25.3%)が最も高く、女性・20代(24.8%)、女性・10代(24.6%)と続いた。令和5年度は、

男性・10代(33.3%)が最も高く、男性・40代(32.8%)、男性・30代(31.6%)と続いた。男性の回収率向上にウェブ回答モードが大きく貢献したことがわかる。(表4)

表4 回収結果（ウェブ回答、性別・年代別）

令和3年度 ウェブ回答

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	502	113	22.5%	10代	246	50	20.3%	10代	256	63	24.6%
20代	1,084	254	23.4%	20代	543	120	22.1%	20代	541	134	24.8%
30代	1,281	313	24.4%	30代	681	161	23.6%	30代	600	152	25.3%
40代	1,748	416	23.8%	40代	935	224	24.0%	40代	813	192	23.6%
50代	1,619	330	20.4%	50代	839	190	22.6%	50代	780	140	17.9%
60代	766	94	12.3%	60代	370	61	16.5%	60代	396	33	8.3%
計	7,000	1,520	21.7%	計	3,614	806	22.3%	計	3,386	714	21.1%

令和5年度 ウェブ回答

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	306	98	32.0%	10代	156	52	33.3%	10代	150	46	30.7%
20代	782	217	27.7%	20代	409	105	25.7%	20代	373	112	30.0%
30代	955	291	30.5%	30代	497	157	31.6%	30代	458	134	29.3%
40代	1,117	343	30.7%	40代	580	190	32.8%	40代	537	153	28.5%
50代	1,294	322	24.9%	50代	666	195	29.3%	50代	628	127	20.2%
60代	546	93	17.0%	60代	277	59	21.3%	60代	269	34	12.6%
計	5,000	1,364	27.3%	計	2,585	758	29.3%	計	2,415	606	25.1%

④ 回収結果（訪問回収、性別・年代別）

令和5年度は、全ての性別・年代で令和3年度より回収率が下がっており、特に女性・50代では令和3年度で8.3%、令和5年度で1.6%と6.5ポイント減少した。また、男性・60代では令和3年度で11.1%、令和5年度で5.1%と6.0ポイント減少した。

年度ごとに性別・年代別に回収率をみると、令和3年度は、男性・60代(11.1%)が最も高く、男性・10代(8.9%)、女性・60代(8.3%)と続いた。令和5年度は、男

性・60代(5.1%)が最も高く、男性・10代(4.5%)、男性・50代(3.6%)と続いた。訪問回収に比較的抵抗感が少なかった高齢者層も、訪問回収が副次的モードとなつたことで、訪問回収が減少したと考えられる。(表5)

表5 回収結果（訪問回収、性別・年代別）

令和3年度 訪問回収

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	502	34	6.8%	10代	246	22	8.9%	10代	256	12	4.7%
20代	1,084	53	4.9%	20代	543	26	4.8%	20代	541	27	5.0%
30代	1,281	61	4.8%	30代	681	36	5.3%	30代	600	25	4.2%
40代	1,748	125	7.2%	40代	935	67	7.2%	40代	813	58	7.1%
50代	1,619	117	7.2%	50代	839	54	6.4%	50代	780	63	8.1%
60代	766	74	9.7%	60代	370	41	11.1%	60代	396	33	8.3%
計	7,000	464	6.6%	計	3,614	246	6.8%	計	3,386	218	6.4%

令和5年度 訪問回収

男女計				男性				女性			
年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率	年代	標本数	回収数	回収率
10代	306	11	3.6%	10代	156	7	4.5%	10代	150	4	2.7%
20代	782	18	2.3%	20代	409	12	2.9%	20代	373	6	1.6%
30代	955	26	2.7%	30代	497	15	3.0%	30代	458	11	2.4%
40代	1,117	18	1.6%	40代	580	8	1.4%	40代	537	10	1.9%
50代	1,294	34	2.6%	50代	666	24	3.6%	50代	628	10	1.6%
60代	546	23	4.2%	60代	277	14	5.1%	60代	269	9	3.3%
計	5,000	130	2.6%	計	2,585	80	3.1%	計	2,415	50	2.1%

6. 回収数の推移

令和5年度の回収数の推移を図2に示した。調査票発送(10/16)の2日後からウェブによる回答が始まり、7日後から郵送返送が始まった。

督促はがきを発送するまで(10/30)に回収率は30.8%となった。その後、訪問依頼が始まると(11/9)に、回収率は49.3%と、5割程度まで回収が進んだ。督促はがきを発送してから調査員による訪問依頼が始まるとまでの10日間で回収率が20ポイント程度上がったこととなる。この10日

間では、ウェブ回答は421件(全体の8.4%)確認された。また、郵送返送は502件(全体の10.0%)確認された。配達期間を考慮すると、督促はがき発送後3日目(11/2)からウェブ回答者の反応がみてとれ、7日目(11/6)から郵送回答者の反応がみてとれる。

訪問依頼期間中にも郵送返送・ウェブ回答が進み、訪問終了(11/19)の回収率は56.1%となった。その後も郵送返送やオンライン回答が認められたため、委託元と協議しながら、12/22を受付締め切り日とし

た。結果、受付締め切り日には回収率 62.2% となった（訪問依頼期間中に訪問回収した 130 件を含める）。

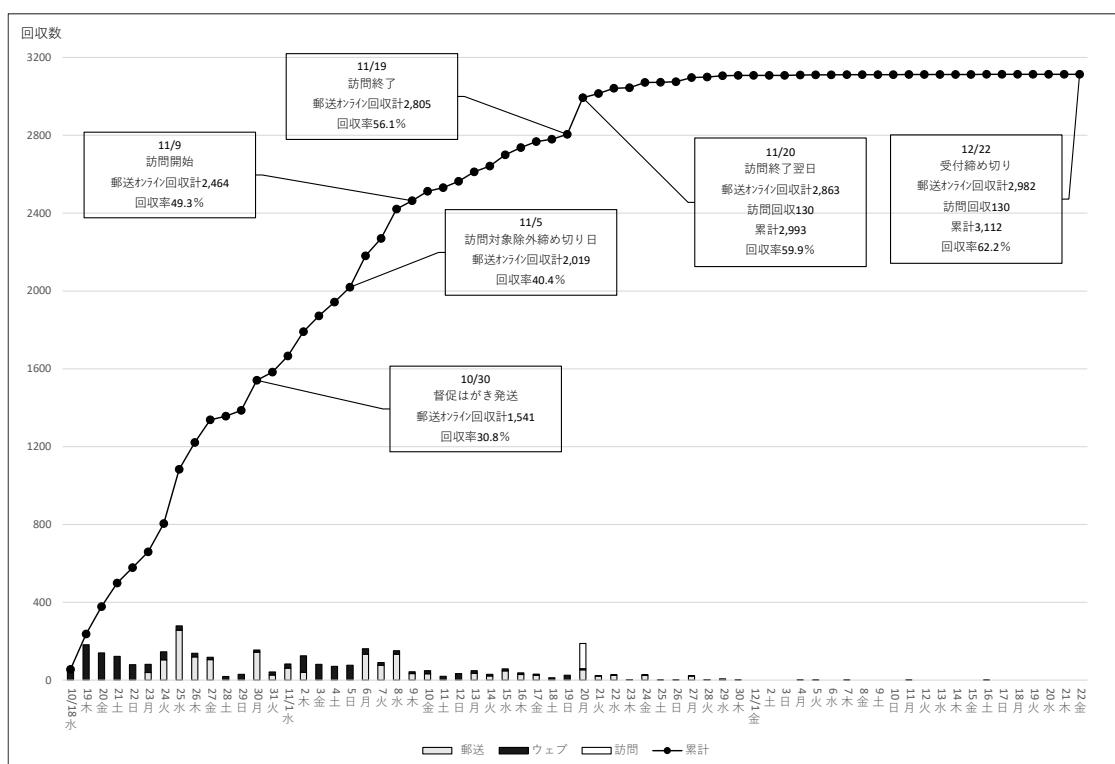
7. 調査員による訪問依頼について

令和 5 年度は、11/9 から 11/19 までの 10 日間を、調査員による訪問依頼期間として設けた。この期間に、1,200 人に面会またはインターネット越しに接触した。1,200 人にに対する訪問結果は、訪問回収 130 人、郵送返送またはウェブ回答を約束 696 人、調査拒否 374 人であった。郵送返送またはウェブ回答を約束した対象者 696 人のうち、33.9%にあたる 236 人から回答を得た。

一方、時間や日を変えて複数回の訪問をしたもの、接触できなかつた対象者には、訪問した事実と郵送またはウェブ回答を依頼する旨を記載した用紙をポスト投函した。この用紙をポスト投函した対象者は 541 人であり、7.2%にあたる 39 人から回答を得た。

上記のとおり回答を得た訪問回収 130 人、郵送返送またはウェブ回答を約束した対象者 236 人、用紙をポスト投函した対象者 39 人の計 405 人について、調査員による訪問を受けたことで回答した対象者とみなすことができる。これは、令和 5 年度の標本数 5,000 人に対して 8.1%である。

図 2 令和 5 年度 回収数の推移



8. まとめ

令和5年度は、「郵送法(ウェブ回答併用)、並行して訪問依頼期間あり」という調査方法で実施し、令和3年度の「訪問留置法(郵送返送・ウェブ回答併用)、追加郵送調査あり」という調査方法と異なる方法で調査を実施した。結果、10ポイント以上の回収率向上となった。すべての年代で回収率が増加しており、特に、10代では男性が19ポイント増加し、女性が16ポイント増加した。回収の推移をみると、訪問依頼が始まるまでに5割近くまで回収が進み、特に、督促はがきを発送してから調査員による訪問依頼が始まるまでの10日間で、回収率が20ポイント程度上がった。これは、単に、「郵送法(ウェブ回答併用)の実施で令和3年度と同程度の回収率が確保できた」と理解すべきではないと考える。調査書類に記載された、「調査員が、後日訪問する」というメッセージが対象者の心理に働きかけ、郵送回答やウェブ回答を促したと推察される。調査員による訪問依頼に起因する回答として、標本数5,000人に対して8.1%（405人）から回答を得た。最終的に、回答受付締め切りとした日までに、62.2%の回収率となった。

本稿で報告した令和5年度調査の調査方法は、令和3年度調査と比較して、回収率の全体的なボトムアップのほか、接触が難しいとされる若年層の回収率向上がみられた。今後、同手法での調査実績や回収結果を積み上げ、検証を続ける必要がある。

【謝辞】

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 隼也先生には、令和3年度及び令和5年度「薬物使用に関する全国住民

調査」の実施においてご指導を賜り、また、本稿の執筆についてもご了承を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(注)

- 1 調査結果について、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部のホームページで研究報告書が公開されている。
令和3年度調査：https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/J_NGPS_2021.pdf
令和5年度調査：https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/J_NGPS_2023.pdf
- 2 11/9の訪問開始時点で、調査員の訪問を受ける可能性があった対象者は、2,497人であった（標本数5,000に対して49.9%）。回答が確認できた対象者及び調査拒否を除外した。
- 3 行き違い訪問の件数は、①回答日よりも後日に訪問した件数、②訪問日と同日または翌日に回収した郵送返送、①②の件数を合計した。また、訪問日と同日のオンライン回答は入れ違いに含めていない。

